

# 在宅医療の先進例紹介

## 白髭豊さんが講演

全国の開業医や福祉関係者、患者らでつくるNPO法人(特定非営利活動法人)在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク(本部・東京都)は二十九日、松本市新村の松本大学で、在宅ケアを考えるシンポジウム「しんしゅう会議」を開いた。約百八十人が参加し、在宅医療の先進例



基調講演する白髭さん

に関する講演や討論を通じて、地域の実情に合った体制づくりを探った。在宅医療に取り組む長

崎市医師会理事の白髭豊さんが「長崎在宅D.E.ネットの取り組みについて」と題して講演した。白髭さんは在宅医療は患者の生活の質を高めると説明し、「自宅療養したいと考えている患者は多い」と話した。長崎市で平成十五年にスタートした「長崎在宅D.E.ネット」は、主治医や副主治医、病診連携にかかわる病院医師、眼科や皮膚科といった「協力医」、ヘルパー、管理栄養士など多職種が連携して患者を支えるシステムだ。主治医が訪問診療的な助言をする。白髭さんは「在宅医療を無理な移行や、入院時の対応、疾病や治療に関する専門と訴えた。(宮本由貴子)

### 高齢者の在宅ケア

#### 関係者ら意見交換

松本で「しんしゅう会議」

高齢者の在宅ケアを考える「しんしゅう会議2008」が二十九日、松本大(松本市)で開かれた。写真。県内外の医療、福祉関係者など約百九十人が集まり、意見を出し合った。

全国の診療所や医療機関、医療関係企業などをつくるN



P.O法人「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」

ク(東京)が二〇〇四年から毎年開き、五回目。

「地域での看取り」をテーマにした分科会では、患者を主治医や副主治医など複数の医師で診るネットワークを取り上げた。茅野市で訪問診療をする林直樹医師は「急な場面で担当医が代わり、理解が得られるかが課題」と指摘。宮田村で診療所を営む斉藤卓雄医師は「看取りは患者と親せきのような関係をつくらないとうまくいかない。ネットワークをつくるなら、医師同士のカンファレンス(会議)をしつかりしないと難しい」とした。